

令和元年度 研究の概要と 全国公開研究会のご報告

1 研究主題と研究主題の設定理由

学習指導要領の改訂を受け、平成 29 年度より「**小中一貫した教育課程に関する研究—各教科の指導から考える学びの地図の構築—**」と研究テーマを掲げ、3 年間計画の研究活動を行ってきました。

①新学習指導要領への対応は喫緊の教育課題

②各教科の指導が重視される

③学びの地図が求められる

研究テーマ

新学習指導要領を踏まえた小中一貫した教育課程に関する研究—各教科の指導から考える学びの地図の構築—

2 指導講師について

東京学芸大学 教育実践研究支援センター 教授
菅野 敦 氏
(東京都教育委員会 知的障害特別支援学校の教育課程の
在り方検討委員会 専門委員)



本研究の指導講師として選定し、スーパーバイズを依頼しました。

3 研究テーマに対する取り組み

1 年次 「知る・作る」(木を描く)

新学習指導要領を知る

学習指導要領の内容や構造を知る

学びの地図の枠を描く

講師による講義

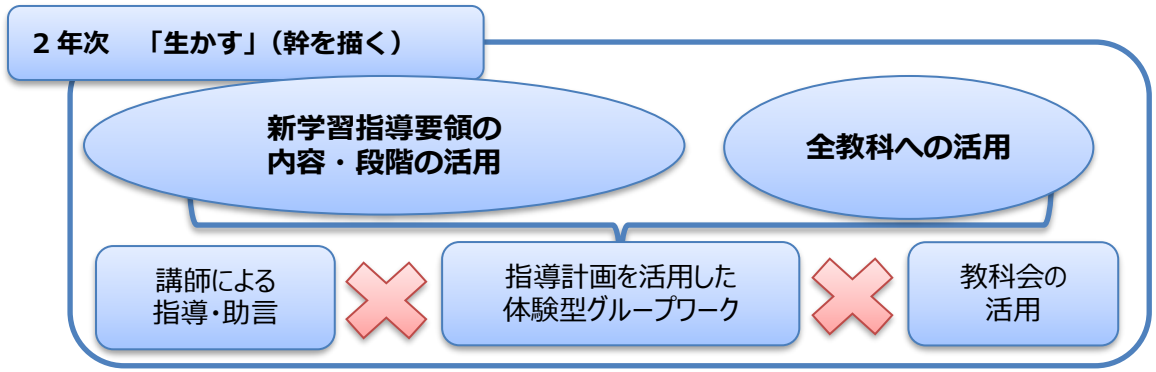


指導計画を活用した
体験型グループワーク

1 年次は、「知る・作る」をキーワードに研究をスタートしました。指導講師の菅野先生より、学習指導要領の改訂に伴い対応が求められる 3 つの課題「学習指導要領への対応」「各教科の指導の重要性」「学びの地図の構築」について話をお聞きし、本研究の意義を確認しました。また、「新学習指導要領内容構成表」の作成を通して、新学習指導要領の構造と内容の理解を深めました。

算数・数学の新学習指導要領の構造





2年次のキーワードは、「生かす」。1年次に作成した「新学習指導要領内容構成表」を教科指導の基準及び授業づくりのアイデア集として活用していけるように、「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」の内容を盛り込む作業を行いました（図1）。また、本校における「学びの地図」（学習指導要領総則編では、学習指導要領は、学校教育を通じて子供たちが身に付けるべき内容の全体像を分かりやすく見渡せる「学びの地図」としての役割を担うと示されている。）の作成に着手しました。教科会でのグループワークを通して、日々の実践を新学習指導要領に位置付ける取組を行い、実際の「学びの地図」の完成を目指しました。（図2）

学習指導要領内容構成表		特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編による具体例・例示
<p>小学部 算数 2段階</p> <p>内容 【知識及び技能】と【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>数と計算</p> <p>思・判・表 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の教え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと</p> <p>知識技能 <ul style="list-style-type: none"> ものともとの対応させることによって、ものとの個数を比べ、同等・多少が分かる。 もの集まりと対応して、数詞が分かる。 もの集まりや数詞と対応して数字が分かる。 個数を正しく数えたり書き表したりする。 二つの数を比べて数の大きさが分かる。 数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いる。 0の意味について分かる。 一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたりして表す。 具体的な事象を加えたり、減らしたりしながら集合数や一つの数と他の数と関係付ける。 10の補数が分かる。 </p> <p>図形</p> <p>思・判・表 <ol style="list-style-type: none"> ものの色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目し、共通点や相違点について考え、分類する方法を日常生活で生かすこと 身の回りにあるもの形に関心をもち、丸や三角、四角を考えながら分けたり、集めたりすること </p> <p>知識技能 <ul style="list-style-type: none"> 色や形、大きさに着目して分類すること。 身近なものを目的、用途及び機能に着目して分類すること。 身の回りにあるもの形に関心をもち、丸や三角、四角という名称を知ること。 縦や横の線、十字、△や□をかきこと。 大きさや色など属性の異なるものであっても形の属性に着目して分類したり、集めたりすること。 </p>		<p>視覚や触覚等の感覚を働かせながら、10までの範囲の数において、ものともとの一対一に対応させるなどによってどちらが多いか、少ないか、同じかを判断して表現する活動から始まり、やがて、数えるものを移動させたり、指差しをしりながら、数詞とものとの対応させて個数を正しく数え、対応が完了した最後の数詞を集合数として表すことができるようになる。そして、雑然としたものを整理して数える、指差しをせずに目で追いつながら数える、いろいろなものの中から仲間集めをして数える活動に発展させ、ものとの個数を正しく数えたり書き表したりすることができるようにしていく。また、数の大小を比べる活動を通して数の系列が分かり、数を用いて順序や位置を表すことができるようになる。さらに、一つの数を合成や分解などにより構造的にみることもできるよ、具体物を操作しながら学んでいくようにする。</p> <p>「数の系列」とは、「1、2、3、4、5、…」というように、1から上昇方向に数が順に並んでいることをさす。順番や位置を調べる活動を通して順序数や集合数の違いが分かるようになる。</p> <p>「0の意味について分かること。」とは、例えば、輪投げなどのゲームにおいて得点がない場合や、手元の輪がなくなるなどの体験を通して、何も「ない」状態を「0」で表すことができるようになる。このとき、0がほかの数と同じ仲間としてみられるようにすることが大切である。</p> <p>数の構成に関わる活動とは、例えば、「3を1と2に分けたり、1と2を3にまとめたり等の合成や分解」、「5は3より2大きい等、集合数を一つの数と他の数と関係付けてみる」等のことである。「数の合成・分解」は、加法及び減法についての理解の素地として、「集合数を一つの数と他の数と関係付けてみること」は、加法及び減法の計算における繰り上がり、繰り下がりについての理解の素地として重要な内容である。</p> <p>身の回りにあるもの色や形、大きさを分類する活動から始まり、同じものでも違う要素に着目して分類すると違う仲間分けができることに気づき、やがて、身近なものを用途、目的及び機能に着目して分類することができるようにする。</p> <p>例えば、皿やコップ、スプーン、フォークなど普段使っている食器類を、「ものを食べるときに使うもの」、「ものを飲むときに使うもの」で分けたり、「食べ物をのせるために使うもの」、「飲み物や汁物を入れるために使うもの」で分けたりすることである。</p> <p>また、こうした活動を通して、身の回りにあるもの形に関心をもち、丸、三角、四角という名称を知って、「色や大きさ、材質など属性の異なるものであっても、形のみに着目して「丸の仲間」、「三角の仲間」、「四角の仲間」で分類することができるようにする。</p>

図1 新学習指導要領内容構成表

小学部 体育		1学期	2学期	3学期
柱書	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題に気付き、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 遊びや基本的な運動の行い方及び身近な生活における健康について知るとともに、基本的な動きや健康な生活に必要な事柄を身に付けるようにする。【知・技】 遊びや基本的な運動及び健康についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら考え行動し、他者に伝える力を養う。【思・判・表】 遊びや基本的な運動に関心をもつことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。【学習力・人間性】 			
小学部 3年生	内容（領域）	<ol style="list-style-type: none"> 体づくり運動 走・跳の運動 	<ol style="list-style-type: none"> 体づくり運動 器械・器具を使つての運動 ボールを使った運動やゲーム 	<ol style="list-style-type: none"> 体づくり運動 器械・器具を使つての運動 ボールを使った運動やゲーム
	目標（ねらい）	<ol style="list-style-type: none"> 教師の支援を受けながら、基本的な体づくり運動をすること 教師の支援を受けながら、楽しく走・跳の運動をすること 	<ol style="list-style-type: none"> 教師の支援を受けながら、基本的な体づくり運動をすること 教師の支援を受けながら、楽しく走・跳の運動をすること 教師の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすること 	<ol style="list-style-type: none"> 教師の支援を受けながら、基本的な体づくり運動をすること 教師の支援を受けながら、楽しく走・跳の運動をすること 教師の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすること
	学習内容（例示）	<ol style="list-style-type: none"> なかよし体操、リズム運動 ※大股小股などの歩き方、片足を軸とした回転 ※持久走、折り返し走、低ハードル、リレー遊び 低障害物走 ※折り返しのリレー、低い障害物走 	<ol style="list-style-type: none"> なかよし体操、リズム運動 ※大股小股などの歩き方、片足を軸とした回転 ※低鉄棒、マット運動、跳び箱 ※ジャンピングポットやトランポリンを使った運動 ※ボール投げ、ボール蹴り、的当て ※一人鬼、手つなぎ鬼など 	<ol style="list-style-type: none"> なかよし体操、リズム運動 ※大股小股などの歩き方、片足を軸とした回転 ※低鉄棒、マット運動、跳び箱 ※ジャンピングポットやトランポリンを使った運動 ※ボール投げ、ボール蹴り、的当て ※一人鬼、手つなぎ鬼など

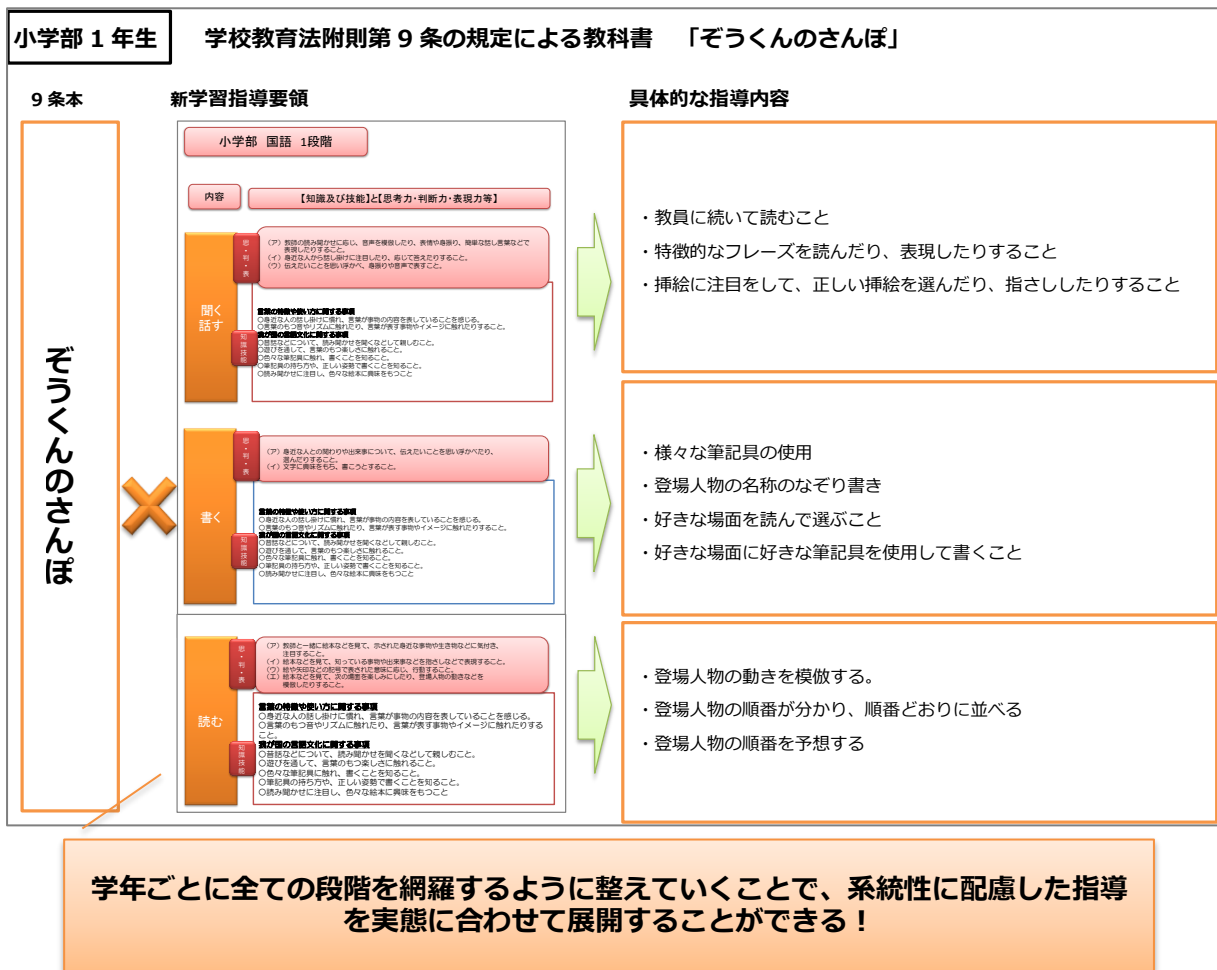
図2 本校における「学びの地図」の基本構造（図は小学部体育科の「学びの地図」）

3年次 「充実させる」(実らせる)

各教科の指導内容の充実

学びの地図の活用を目指した取り組み

そして、3年次(今年度)は、「充実させる(実らせる)」をキーワードに、3か年の校内研究の集大成とすべく、「新学習指導要領内容構成表」と「学びの地図」を実際に活用して明らかになった課題を整理し、「学びの地図」の精度を上げる取組を行いました。国語科・算数/数学科の「学びの地図」の作成を通して、最も多く課題として挙げられた「児童・生徒の実態に応じた学びの地図の作成と活用」について考えました。課題に迫るために、学校教育法附則9条本の規定による教科書(以下、9条本)を活用して「学びの地図」を描くことにしました。本校では、9条本を学年ごとに、系統性に配慮して選定し、活用しています。9条本が学習指導要領というフィルターを通して、児童・生徒の実態に合わせた各教科の教科書として活用されるように工夫しました。



系統性に配慮し、選定した9条本を活用して「学びの地図」を作成したり、「学習指導要領内容構成表」に位置付けたりすることで、児童・生徒の実態を考慮しながらも、生活年齢に合わせた指導を展開できると考えています。

以上、新学習指導要領への対応に関する本校の3年間に渡る取り組みを、**公開研究会(令和2年1月31日)**を実施し、発表させていただきました。全国より約60名の参加者にお越しいただき、互いに学び合うことで、充実した研究会となりました。

公開研究会の様子

第1部 研究主題へのアプローチと 研究の到達点



第2部 新学習指導要領と 実践をつなぐ グループワーク



第3部 指導講師 講演 『新学習指導要領と カリキュラム・マネジメント』 『新学習指導要領への対応Q & A』

4 まとめ

新学習指導要領への対応のもとに研究主題「新学習指導要領を踏まえた小中一貫した教育課程に関する研究—各教科の指導から考える学びの地図の構築—」を掲げ、3か年に渡り研究に取り組んできました。すべての教員が一丸となり、新学習指導要領に対する理解を深め、本校における「学びの地図」の構築に参加できたことは大きな成果と考えます。

次年度から小学部より順次、新学習指導要領が実施されます。新学習指導要領を踏まえた「学びの地図」を整えたことで、教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図る「カリキュラム・マネジメント」が初めて可能になると考えています。また、新学習指導要領を理解したことで、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりの素地が整ったと考えています。教育課程の整備とカリキュラム・マネジメントを通して、新学習指導要領が目指す、「未来社会を切り拓くための資質・能力の育成」を目指していきます。

(文責 研修研究部主任 城田 和晃)